

謹んで新春のお慶びを申し上げます

明けましておめでとうございます。
旧年中は一方ならぬ御厚情を賜り、厚く御礼申し上げます。
本年も皆様の御健康と御多幸を、心よりお祈り申し上げます。

振り返れば、造園という仕事に志しを持ち、各々庭屋さんで修行をした若僧4人が風夢を発足して、今年の3月で20周年を迎えることとなりました。
お客様に喜ばれる、いい庭を作りたいという一心で邁進して参りました。
その間、皆様に可愛がって頂いた若い子たちも数名が独立し、庭師として歩み出し
ております。

当社も、お客様の御厚情を賜り、お陰様を持ちまして造園・エクステリア会社として
信頼と実績、社会的認知を頂ける所となりました。

20周年を期に、育てて頂いたお客様の更なる御要望、御期待に添える様、初心に戻り、私ども風夢一同より一層精進し、日々の暮らしの中に心安らく住環境づくりを御提案させて頂く為、努力する所存です。

本年も、何卒宜しくお願い申し上げます。



狛犬のはなし



初詣。溢れる人や屋台。普段の静謐とした空間から一転して、華やかににぎわう神社。

そんな状態なので、この時ばかりはあまり目に留まりにくいのですが、今回は神社を守る『狛犬』について御紹介したいと思います



神聖な領域の入口を示す狛犬。昔の私は、それは『犬』だと思っていました。正確には、

向かって右側の像が「獅子」(角がなく、口を開いている)

向かって左側の像が「狛犬」(一本の角があり、口を閉じている)

(そのパターンは厳密に守られているわけではなく、場所により様々です。)

「狛犬」や「獅子」、沖縄の「シーサー」は、元は同じ、古代エジプトやメソポタミアで作られていたライオン像がルーツだという説が有力です。

それがインドに伝わって仏像の台座に彫られ、更に中国で「唐獅子」となり日本に入ってきたのですが、ライオンのいない日本ではるか遠い国の動物であり、当時の人々にとってはエキゾチックな神獣だったことでしょう。

しかし、ライオンには角がありませんよね。

一本角のある「狛犬」のルーツは何なのか。

ここが一番気になる所なんですけど...実は、あまりはっきりとした説がないんです。

「じ」という目出度いとされる想像上の動物がいて、牛に似た灰色がかった黒い動物で角が一本あったとか。(『延喜式』平安中期)

宮中で演じられた伎楽で、中国の唐楽「獅子舞」と交互で演じられたのが高麗楽の「狛犬」という曲で、角があったとか。(藤倉郁子氏『狛犬』)

中国には墓域を護る、角のある想像上の守護獣がいたとか...

何にせよ、左右異なった動物を対とし、さらに「阿吽(あうん)」の別をつけているのは日本独自の狛犬の特徴で、大変面白い所です。

物事の始まりを示す「阿」と、物事の終わりを示す「吽」。

入口に「始まり」と「終わり」を並べることで、その中の空間を一周し取り囲む、神社の結界ともなっているのです。

両側に口を開いた、または閉じた像が並ぶよりも奥深さがありますし、単純に”かっこいい”ですよ。日本人の美的感覚の一端が、「狛犬」にも表れているのではないのでしょうか。



ちなみに、写真の狛犬は岡崎の巽彫刻さんが掘られた作品です。

後ろ姿もとってもキュート！この獅子の巻き毛に強い霊力が宿っていると言われます。

贅沢な時間

静岡では急に寒さが増し、秋の訪れをようやく実感し始めた頃、社内の恒例”強行日帰り研修旅行”で軽井沢へ行ってきました。

山頂に雪をのせた浅間山を背に、すでに冷たい空気が張りつめた晩秋を迎えていた軽井沢。

朝の眩しい太陽の光に包まれて、そこかしこの畑から立ち昇る湯気。

その湯気を縫うように点在する唐松林。

自然が創り出す景色はいつでも、背筋を正されるような存在の強さがあります。

そんな景色をただのんびり眺める。そんな時間、なかなかとれるものではありませんよね。



静岡にはない景色を堪能しながら、私たちが向かったのは谷の集落「星のや」。
御存知の方も多いのではないのでしょうか。
「日常を離れ、時間にとらわれない滞在」、ゆったりとした時を過ごすための温泉旅館です。

一歩足を踏み入ると、目の前に広がるのは表情豊かな水の流れ。そしてせせらぎの音。
棚田を模して作られた、日本人の心の原風景が迎えてくれます。

池に浮かぶように棟が並び、部屋までは橋を渡り、狭い路地を抜けて辿り着く。
どこにいても聞こえる水のせせらぎは、やさしく耳に馴染みます。



樹木はもともと敷地内にあったものを移植し、部屋の基礎の石積に使われている石材は、敷地内を掘り起こした時に出土したものを利用したそうです。

その地のものをとことん生かしたからこそ、その土地の空気に馴染み、人に安らぎを与える空間となっているのでしょう。

眺めたり、散歩をしたり、読書をしたり...

女性ひとりで宿泊される方も、結構いらっしゃるとのこと。

まさに、「贅沢な時間の使い方」ですね！

それはお金を使う贅沢ではなく、普段張りつめている心を解放する時間を持つという贅沢。

旅でなくても、日常のほんのひととき、お茶を飲む間だけでもほっとする、そんな時間を少しでも手助けできる庭や公園であってほしい。

そんな事を考えながら、長い帰路に就きました。



～ 美しい星「地球」を、次代の子供たちに～

昨年度は、地球温暖化に伴う異常気象が世界各地で話題になりました。中国では異常豪雨、洪水、土砂崩れによって1350万人以上の人々が被害に遭い、一方アフリカ、中東、中国西北部では異常少雨の為砂漠化、山火事等で緑の減少が進行し、地球規模での環境問題が深刻化しています。

御存知ですか？

国連の報告によれば、飲料水はどんどん不足し、更に汚染化が進み、すでに世界人口の5分の1にあたる12億人が安全な水を確保できずに苦しんでいるそうです。

地球は「水の惑星」と言われ、地球の表面積の7割は海。

では、地球上にある全ての水のうち、私たちが使える水の量はどれくらいだと思いますか？

イ. 10% ロ. 1% ハ. 0.01%



答えは0.01%だそうです。全ての水のうち97%が海水で、淡水は3%ですが、そのうちの大半は南・北極の氷や雪、そして地下水のため、実際に私たちの生活に利用できるのはほんのわずかなのです。

無限にあるように思える水は、実は少なく貴重なもの。

21世紀は「水の世紀」とも言われ、世界の水問題が深刻化しています。

次代を担う子供たちの為にも、日常身近でできる資源の節約と、環境の改善を心がけていきたいものです。



原点に戻り、自然に感謝し生活に上手く取り入れてきた日本の先人たちの知恵、文化を学ぶ。

今後の風の夢だよりでは、地球にやさしい暮らし方のエコ情報を発信させて頂く予定です。

風夢の近況報告



H邸 道場 '07年11月

三ヶ日の山あいにて建てられた、広い縁側が魅力的な剣道の道場。

小鳥のさえずりがいつでも聞こえ、道場の迫力にも負けないように植栽した大きなエノキが、風に揺れます。



Y邸 '07年11月

庭にテラス、玄関前に目隠しを兼ねたくつろぎスペース。かわいらしいガーデニングの庭から、ちょっと大人な庭への改修工事。ライフスタイルに合わせて庭も変化します。



F邸 '07年9月

見上げる先にはやわらかなモミジ。枝越しに見える建物が優しげです。



Y 医院 屋上庭園

'07年12月

借景の木々の緑を活かして庭園内にも濃い緑の植栽を。広い空と町並みの眺望を楽しみながら、ゆっくりとくつろいで下さい。



H邸 '07年12月

シンボルツリーの背の高いアラカシが、目線を上へと引き上げます。

ゲストハウス

'07年12月

館山寺のゲストハウス。春の訪れを待つ繊細なモミジたち。これからの楽しみです。



N邸 '07年12月

落ち着いた外まわり。最新タイプのカポートは、4台分を確保できます。そしてかっこいい

